

「第3次旭市行政改革アクションプラン」を策定

市では、行政改革の基本的な考え方や取り組み内容などをまとめた、第3次旭市行政改革アクションプランを策定しました。本計画により、平成27年度から33年度までの7年間を推進期間として集中的に改革に取り組みます。

改革の三つの重点戦略

1 人と組織の育成戦略

新たな価値を創造し、市民本位の視点に立った行政経営の実現

多様化・高度化する市民ニーズに因應するため、新しい発想や経営的感覚を持った職員を育成し、効率的かつ柔軟な組織体制を構築していくことで、行政サービスの質を高め、市民の満足度を向上させる行政経営への改革を目指します。

また市民に対し、情報の提供を積極的に行い、市民と行政が情報を共有することで、良好な信頼関係の構築に努めます。

2 自立のための財政戦略

持続可能で弾力的な財政構造の確立と財政基盤の強靱化

予想される将来の厳しい財政状況下においても、行政サービス

スを低下させることのない、しなやかな財政構造を確立するとともに、いかなる事態が発生しようとも揺らぐことのない強い財政基盤を目指します。

また将来においても安定した行政サービスを提供するために、継続した改革と安定した歳入の確保、歳出の節減に努めます。

3 効率的な資産戦略

資産マネジメント体制の確立

市の保有する道路、橋梁などの社会基盤施設や、庁舎など公共施設の将来における維持管理費や更新費を抑制・平準化するため、長期的視点を持って予防保全などによる長寿命化・安全確保に取り組みます。

また地域の実情に合わせたまちづくりを進めるため、市全体の資産の在り方を経営的・戦略的に検討する体制を確立し、資



産の質を確保しつつ、最適な量と配置の実現を目指します。

公表しています

第3次旭市行政改革アクションプランのくわしい内容と、本計画策定に当たり受け付けした意見の概要、有識者や市民で構成する旭市行政改革推進委員会からの提言は、市ホームページで公表しています。

また本計画は、市役所本庁情報公開コーナーや各支所住民室、各保健センター、市図書館、各公民館図書室、総合体育館でも見ることが出来ます。

問い合わせ先

行政改革推進課行政改革推進班

☎ 62・5345



みんなで考える 未来の公共施設

第9回

小学校の現状

今回は小学校の現状を紹介します。

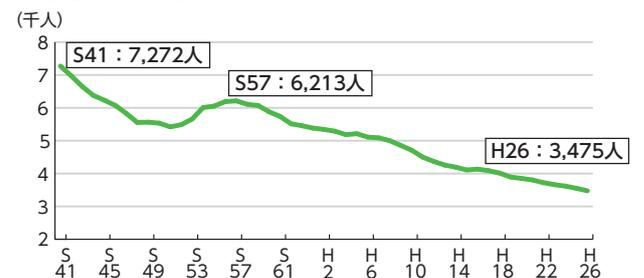
市内には15の小学校が設置されています。過去からの市内児童数の推移を見ると、昭和57年の6,213人から平成26年の3,475人(各年5月1日現在)へと、少子化の影響により4割以上減少していることが確認できます。連載第3回で紹介した今後の人口推計の減少割合を当てはめれば、平成52年には2,100人程度と、現在からさらに4割近く減少していくことが予想されます。

学校施設は、教室棟、特別教室棟、屋内運動場など多くの建物群で構成され、市の公共施設全体の5割を占め、それぞれの学校を大型公共施設として捉えることができます。現在の校舎は、昭和50年代に集中して整備されたものが多く、近い将来にはその建て替えや大規模改修といった工事の必要性が生じてきます。

これからは、将来の児童数の減少を予測しながら、良好な学習環境の構築に向けた学校規模や施設整備の検討を進め、将来のあるべき姿を真剣に考えていく必要があります。

小学校は、教育活動の場だけでなく非常時の防災拠点など、市の重要な機能を担っています。今後、施設の多機能化や周辺施設機能の集約化・複合化など、柔軟な活用方法の考え方も求められます。

市内児童数の推移



※各年5月1日現在

旭市行政改革推進課行政改革推進班(☎62-5345)